

# 集落環境調査に基づく 鳥獣被害対策の意識醸成（川内村）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業  
小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証  
研究課題名 集落活動による鳥獣被害対策の実証（川内村）  
担当者 小野 司

## I 新技術の解説

### 1 要旨

営農再開地域では、鳥獣被害対策が不可欠であるが、農業者個人での対策には限界がある。そこで、集落における鳥獣被害の状況や課題を整理し、集落住民と共有を図ったところ、鳥獣被害対策に関する意識醸成につながった。

- （1）集落環境調査により野生動物の出没、鳥獣被害対策、誘引物の状況を明らかにし、鳥獣被害を防止する上での課題を整理する（表1）。
- （2）野生動物の出没状況や被害について、動画や具体的な日時の提示、現地確認等により集落住民と情報共有する。
- （3）鳥獣被害の状況と課題について、意見交換を行い、短期的、長中期的な活動を定めることで、鳥獣被害対策に関する集落住民の意識醸成につながる（表2）。

### 2 期待される効果

- （1）市町村や県の鳥獣被害担当者等が、集落環境調査の結果を活用して鳥獣被害対策を推進できる。

### 3 活用上の留意点

- （1）鳥獣被害対策は、専門家の意見等も踏まえて、効果的な対策を実施する。
- （2）鳥獣被害対策の課題は、集落により異なるので対象集落毎に課題を明確にする。
- （3）集落環境調査は、「避難指示区域における有害鳥獣生息状況調査に基づく被害防止対策パッケージ実施体制整備支援」等を活用する。

## II 具体的データ等

表1 集落環境調査で明らかになった集落の状況

調査内容	調査方法	集落の状況	明らかになった課題
野生動物の出没	赤外線センサーカメラの利用 聞き取り	イノシシだけでなく、ハクビシンやアライグマ等の 中型獣類が確認される イノシシは昼夜ともに出没している	①中型獣類への対策
鳥獣被害対策	ほ場巡回 防護柵の設置エラーを記録 (電気柵の電圧や高さの測定、 写真による記録)	電気柵が、ほ場のまとまりに合わせて設置で きている 畦畔の掘り返しや水稻の踏み倒し等の被害 が発生している 電気柵の通電が夜間のみを設定されている 電気柵の高さが異なる 常に漏電している電気柵がある	②電気柵設置エラー ③管理が不十分
誘引物等	ほ場巡回 (足跡、食痕等を観察)	クリの落果をイノシシが春先にも採食している 箱ワナを学習した個体が確認される	④クリ等落果の処分 ⑤イノシシ捕獲方法

表2 鳥獣被害を防止する上での課題と対応方法に関する住民の意見

課題	対応方法に関する集落住民の意見
①中型獣類への対策	個々で対策を実施する。 対策方法は、適宜役場等に相談する。
②電気柵の設置エラー	基本的に設置者が管理する。 年1回程度(3月頃)研修会を開催し、設置方法を確認する。
③管理が不十分な電気柵	ワイヤーメッシュ柵の導入を検討する。
④クリ等の落果の処分	落果の掃除に取り組む。 方法は検討する。
⑤イノシシ捕獲	捕獲体制の拡充を要望している。

## III その他

- 1 執筆者 小野 司
- 2 実施期間 令和2年度
- 3 主な参考文献・資料 なし